（別紙4）　　平成　25　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1171100751		
法人名	株式会社あすなろホーム		
事業所名	あすなろホーム庄和		
所在地	埼玉県春日部市西金野井165-9		
自己評価作成日	平成　26年　2月　25日	評価結果市町村受理日	平成26年　4月　28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/11/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=1171100751-00&PrefCd=11&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町３－８８逸見ビル2F
訪問調査日	平成 26年　3月　13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

理念に基づき利用者様の意思・人格を尊重し、利用者様一人ひとりに寄り添いその人らしく安心して笑顔で日常生活が過ごせるように努めています。ADL、QOLの向上に努め、レクリエーション等に力を入れ、地域での催し物に参加し交流を図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

開所10年目を迎え、管理者は、利用者の高齢化とともに必要なサービスが変わってきていると考えている。要介護度の差があっても、利用者が楽しみながら自分の身体機能を維持することを目的に、今は室内レクリエーションに力をいれている。毎日継続するためには、どの職員も対応できるよう、事前に何種類もの小道具を用意しておく工夫をしている。利用者のいきいきした様子は写真やタブレットPCに記録し家族に報告している。近隣小学校とは、授業の一環としての交流が継続しており、毎年3年生と6年生が時期をずらして訪れている。この訪問は、利用者にとって嬉しい時間であり、また小学生にとっては利用者から多くを学ぶ貴重な時間となっている。協力医療機関との連携が密であり、利用者、家族の安心材料の一つとなっている。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時に出勤者全員で地域密着型サービスの意義をふまえた、あすなろホーム理念を唱和し理念を共有し毎日の業務を行なっている。	法人の理念を事業所の理念として考えている。管理者と職員は、理念を毎日唱和し、頭に入れている。事例検討は、理念をもとに話し合い、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の小学校、中学校、ボランティアの方との交流を多く受け入れ、自治会の掃除にも参加し、地域の行事へ積極的に参加するように心がけている。	近隣小学校の授業の一環として、毎年3年生、6年生を迎えている。手品、踊り等のボランティアを受け入れし、地域の方々と交流している。地域の一員として事業所周りの清掃活動を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年月を重ね、地域の方と顔なじみになってきている。地域の小学校、中学校（社会体験チャレンジ）、介護保険相談員を受け入れ、認知症の人の理解や支援の方法を地域の方に向けて活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議の中で、毎月の行事ごと、サービスの実際、取り組み状況を報告、また市担当者他と情報・意見交換を行いサービスの向上につなげている。	2ヶ月に1回開催している。災害訓練やレクリエーション等日頃の取り組みを報告し、情報交換をしている。サービス内容に関しての質問や要望には丁寧に対応し、サービスに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者と日頃から連絡を密に取りながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市担当者とは書類のやりとりが多いので、できるだけ直接窓口を訪問して話し、良い協力関係を築けるよう努めている。感染症の流行や対応方法等の必要な情報を得てサービスに役立てている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを目指して勉強会を行なっている。身体拘束を誘発する原因を探り、除去するケアを行っている。生活リズムを整え、利用者の状況を見極め、不安や不快・孤独を少しでも緩和できるように努めている。	事業所内で研修を行い、身体拘束をしないケアを実施している。話し方、言葉による虐待に関しては、管理者がその都度注意を促し、意識を高めている。平屋ということもあり、利用者は事業所内を自由に移動している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止の話し合い、勉強会を行なっている。研修等に参加し職員間で現場の対応や悩み等共有し、虐待を見過ごさない職場環境作りをしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は個々の必要性があれば、関係者と話し合い、それらを活用し支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、ご家族と一緒に契約書を読み家族に対し分かりやすく説明し、不安や疑問に対し丁寧に説明し理解していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議・家族会で利用者・家族の意見や要望を聞き、出席されている外部の方と意見交換をしている。記録は面会時に見て頂ける様にしている。	意見箱を設置しているが、家族の話は面会時に直接聞く事が多い。毎年クリスマス会と同日に家族会を開催し意見を得ている。あすなろ通信を2ヶ月に1回発行して様子を伝え、必要な方には請求書に手紙を添えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の全体会議で意見や提案など話し合っている。	会議で職員の意見提案を聞くようにしている。会議で意見が沢山でるよう、議題は前もって提示している。個人面談を実施し、皆の前では言いにくい様な意見、要望も言えるよう配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が職員の個々の状況を把握し、働きやすい環境・条件を考慮し整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議を毎月行い、仕事に対する向上心を促し、勉強会や研修を受ける機会を確保し、働きながら参加できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他ホームとの交流の機会や外部研修等に参加し、それらの活動を通じネットワーク作りをしていきたい。市内グループホーム連絡会に管理者が参加し交流を通しサービス向上につなげている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	いつもそばにいて安心できるように話しかけ、周りの人と会話が出来るように間に入るなど、一人にさせないようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約を行なう前に施設内を見学していただき、困っている事、不安な事、要望等について十分に聞き入れ、家族が納得・安心していただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に本人と家族に直接面談し、意見や希望を聴取し生活状況を見極めてケアプランを作成、本人に合ったサービスの提供に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の出来る事を把握し、掃除機かけ、洗濯物を干したり等手伝っていただいている。レクリエーションやリハビリ体操、催し物などに職員も一緒に参加し、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族来所時には日常の様子を報告、変化が見られた際には連絡を入れている。利用者本人の気持ちや希望をさりげなく家族に伝え、お互いの気持ちが通じ合えるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームへ入居以前に愛用していた家具・写真等を居室に置き、出来る範囲で安心できる場を作っている。ご家族や友人の来所も時間制限無く、希望に沿って支援出来る様努めている。	友人や家族が面会しやすいよう、特に面会時間は決めずに受け入れしている。お墓参りや親族の集まりにも参加できるよう、支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆が集まる食堂では、利用者同士の関係に配慮し座席を考え、気の合う者同士で座っていただいている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても本人・家族が望めば、相談や支援に努めている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの暮らしを尊重し、時間をかけながら、これからの生活に馴染めるように働きかけている。	日頃の会話と動きや表情等をよく頭に入れ、利用者の意向をくみ取るように努めている。食事の要望が多く、おしるこ、甘酒等日本人に馴染みの物を一緒に作り提供している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の実調や家族面会時に利用者本人・家族とコミニュケーションを十分にとり生活環境や経過を聴取し、記録に残し全職員が把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェック、食事量から健康状態を把握し、利用者の訴えや様子から有する力等の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人が穏やかに気持ちよく生活するために、本人・家族・職員と話し合い、また利用者一人ひとりに担当者を付け、より本人の現状に即した介護計画を作成している。	介護計画は、家族、利用者の要望をくみ取り、意見を出し合って作成している。毎月見直し、変化があればその都度話し合い変更している。介護計画は家族に直接説明し、同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子の中で、いつもと違う様子だった場合、気づきや工夫を申し送り事項に記入し、職員間で情報共有しながら実践、介護計画につなげ、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のその時々に生まれたニーズに対し、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護保険相談員の訪問、ボランティア、小学生などの交流も増えており、消防署の協力で避難訓練を行い、安全な暮らし、楽しみのある生活を送っていただけるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からの掛かりつけ医があれば出来るだけそのままにして、安心して適切な医療を受けられるように支援している。本人、家族がきちんと納得した上で、提携病院の往診を受け、掛かりつけ医との関係も大切にしている。	協力医療機関と契約し、往診を受診する利用者が多い。状態を医師に伝えるため、そして精神科の薬は家族の同意が必要と考えているために、精神科通院には家族と同行するよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者と常に関わり、変化のあった場合には施設長が看護師である為、報告、相談し健康状態を把握している。夜間の特変時の対応も確保されている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族と連絡を密に取り合い、状態の把握や病院での病状説明の際は、家族と同席し病院との情報交換や相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族と本人に終末期についてのアンケートを取り希望を聞いている。重度化してきた際に再度意向を確認、事業所で出来る事の説明を十分に行っている。提携病院の往診時、医師から家族への病状説明や、夜間帯看護師、提携病院と連絡を密に取りながら支援に取り組んでいる。	家族と利用者には契約時に重度化した場合、終末期のあり方について説明している。終末期の支援に関してはアンケートを実施し、希望を確認している。協力病院との連携が密であり、医師、看護師、介護スタッフの協力体制が整っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内で応急手当や初期対応について定期的に学び、看護師の指導により実戦力を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て年2回の避難防災訓練を行っている。近隣の方々と協力体制を築けるように努力している。	年2回避難訓練を実施している。昼夜問わず避難誘導ができるよう、訓練は夜間想定、昼間想定ともに実施している。現在、震災についても対策強化に取り組んでいる。	現在、火災に加え震災についても対策を強化している。災害対策がより充実されることを期待する。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりを大切にし、人格を尊重し、傷つけない対応・言葉づかいを行っている。 プライバシーや個人情報を守ることの重要性について職員の意識を高める様に取り組んでいる。	職員の不適切な言葉遣いについては、その都度注意している。入浴、排泄介助は必ずドアを閉め、外からの視線を防ぐために、特に夜間は厚いカーテンを必ずひく配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意見や希望を聞き、出来る限り自己決定できるように支援を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合を優先せず、利用者個人のペースを大切にし、体操やレクリエーションを行う時には声かけをし、自由に参加していただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時や外出時には、職員と一緒に洋服を選んでいただくように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの嗜好を把握し、食事を楽しむことができるよう支援している。出来る利用者には片付け等協力していただき食器拭きを手伝っていただいている。	厨房にて調理職員が作ったものを提供しており、日常的には配膳、下膳を職員と一緒に行っている。畑で採れたサツマイモを食べたり、焼きそば等を皆で作って食べる日もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの身体状況に応じて食事量・水分量をバランスよく、過剰接取しないように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立している利用者には声かけし、歯磨き・義歯洗浄・うがいを行っている。介助が必要な利用者には、口腔ケアを行い、清潔にしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により個々に合わせたトイレ誘導を行っている。自由に行ける雰囲気にしている。	排泄チェック表を利用し、個々のタイミングに合わせて声かけをしている。できるだけトイレで排泄できるよう、時間だけでなく利用者の様子からも排泄のタイミングを把握している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘状況に合わせた、個々に適した排便コントロールを行っている。午前、午後に運動を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の都合の良い時に入れるように、タイミングをみて入っていただいている。	基本1日おきに入浴している。拒否のある場合は、無理に勧めず、気分の良い日を見計らって声をかけている。職員との会話や歌を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調に合わせて、昼寝をしている。天候の良い日は、布団を干して気持よく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の薬についてまとめた（目的、副作用、用法、用量）ファイルを使用し、常時見られるようにしている。精神薬は、薬剤師による勉強会など行っている。症状の変化のある人は、其の都度看護師に報告し対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日レクリエーションを行い、ゲームで順位を付け、競い合い楽しんでいただいている。利用者の有する能力に合わせ板書等をしていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に沿って戸外に出かけられるよう支援に努めている。花見、動物園、ドライブ、初詣など季節ごとに外出し、家族や地域の人々の協力しながら出かけられるように支援している。	近所の散歩は毎日行っている。季節ごとにお花見やドライブ等の外出を計画し、普段は行けないような場所にも出かけられるよう支援している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理できる利用者には、所持していただいている。職員と買い物に行った時は、日常品、お菓子等本人に買っていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族より電話が掛かってきた際は直接話して頂いている。手紙のやり取りができる利用者には、年賀状や手紙等のやり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天候等に合わせ居間等共用空間の光の調整を行い利用者にとって不快のないよう配慮している。また各居室、トイレ等ダウンライトにて調整、刺激の無い様に工夫をしている。フロア内には、行事ごと、季節の飾り付けを行っている。ホーム内の庭で咲いた花を生けるなど行っている。	利用者の移動の妨げにならないよう、物の配置に気を配っている。廊下に敷き詰められたカーペットは汚れた部分だけを洗うことができるため、汚れた際は、すぐにきれいにしている。庭に咲く季節の花を飾り、季節を感じられるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室内には使い慣れた馴染みのある家具を置いて過ごしたり、フロア内には食堂のテーブルのほかに、少人数で座って話せる小さなテーブル等置き、気の合う者同士が談話出来る環境づくりをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	転倒などに配慮しながら、愛用していた家具や昔の写真、家族との写真を置き、安心して過ごせるようにしている。	使い慣れた家具や家族の写真を持ち込みしている。家族には利用者の動線を考えた配置を勧め、介護度の高い利用者の居室は、物をあまり置かず広い空間を作る工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室のドアやトイレに大きく名前を書き分かりやすい様に貼っている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼時に事業所理念に沿って、出勤者全員で唱和し実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の小学校との繋がりを持ちボランティアの訪問を受けたり行事への参加を行っている。散歩時等で出会った際には挨拶を行ったり交流を持つように心がけている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献	年月を重ね地域の方と顔なじみになってきている。地域の小学校、中学生(社会体験チャレンジ)、介護保険相談員等を受け入れ、認知症の人の理解や支援の方法を、地域の方に向けて活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進会議の中で自己評価・外部評価の結果や改善計画、入居状況、日常の健康管理、重度化した際の状況を報告し、毎月テーマを考え意見交換し、サービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で市担当者から情報、連絡を密に行いながら、施設の実情やケアサービス状況を伝え協力関係を築くように取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設け、勉強会を行い、拘束解除に向け毎週1回カンファレンスを行い実践している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の研修等に参加し、勉強会、話し合いを行い虐待防止に努めている。また虐待が見過ごされない様、職員間で問題意識の徹底を図っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は、個々の必要性があれば、関係者と話し合い、それを活用出来るように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項等を分かりやすく説明し、疑問等の質問に対して丁寧に説明し理解して頂いている。また入居前に施設に来て頂いたり不明な点は遠慮なく言って頂くよう申し上げ納得が得られるよう図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議・家族会で利用者・家族の意見や要望を話し合い、外部の方との意見交換が出来ている。記録に残し、面会時に見ていただけるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の全体会議で意見や提案など、話し合い反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が職員個々の状況を把握し、働きやすい職場環境・条件を考慮し整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議を毎月行い、仕事に対する向上心を促し、勉強会や研修を受ける機会の確保を働きながら参加出来るようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他ホームとの交流の機会や外部研修等に参加し、それらの活動を通じ、ネットワーク作りをしていきたい。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っていること、不安なことを話す事ができ要望等に耳を傾け、本人が安心出来るような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設内を見学していただき、困っている事、不安な事、要望等を聞き家族が納得され安心していただくよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に本人・家族事情を伺い、必要としている支援を見極め、サービスに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日リハビリ体操・レクリエーションを職員と一緒に行う中で、本人の出来る事を把握し、お互い協力し合い、生活を共にする者同士関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の来所時、日常の状況を報告、変化が見られた時は連絡を入れたり、家族との絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人などの面会、外出について制限なく、本人の希望に沿って支援できるよう努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が楽しめるよう会話作りに努め、職員は互いの関係を配慮し居間での座席を決め、相互関係を大切に支援に努めている。レクリエーションにより利用者同士が協力し、支え合える環境づくりを行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した後も、必要に応じ今まで通り、本人、家族の経過に応じ相談や支援に努めている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりのアセスメントをしっかり把握し、その人らしさを考え、困難な場合は、本人本位に検討し働きかけている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の実調や家族の面会時、生活環境を聴取し、また本人とのコミニュケーションを十分にとり、生活歴を知り、記録に残して、全職員が把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェック、食事量から健康状態を把握し、利用者の訴え、また様子から有する力等を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者に担当をつけ経過記録をモニタリングし、計画作成につなげている。また、本人が穏やかに気持ちよく生活する為、本人の様子を家族に報告し、現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、ケアの気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有し介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人家族に生まれたニーズに対応し柔軟なサービスや支援の多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護保険相談員、ボランティアの訪問も増えてきている。また、小学校との交流、消防署の協力で避難訓練を行い、安全で楽しみのある生活を送っていただけるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問往診があり、変化のある時は、受診前に相談も行ったり適切な医療を受けられるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設長が看護師であり、利用者の健康状態を把握し、夜間帯の特変時の対応が確保されている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族と連絡を密に取り、状態の把握や病院での病状説明時には、家族と同席し病院との情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化する前に、本人・家族の意向を確認しているが、重度化した場合、再度家族に確認し協力病院の往診時家族とホームの職員が一緒に説明を受け、方針を共有し支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内での勉強会で応急手当初期対応について学んでいる。看護師から、定期的に学ぶ機会を設けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、年2回避難・防災訓練を行っている。地域との協力体制を築けるように努力している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重して、一人ひとりを大切にし対応、言葉がけを行っている。 採用時はもとより、プライバシー・個人情報を守ることの重要性、職員意識を高めるように取り組んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員との信頼関係を築き、本人の思いや希望が表せる環境、無理のない範囲で能力に合わせ自己決定できる支援を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合を優先せず、入浴など一人ひとりのペースや希望に沿って行い、ドライブ・買い物など希望のある時は、希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意向を聞き、洋服等選んでいただき着用していただいている。また2か月に1度の割に訪問理美容を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの嗜好を確認し、食事を楽しみながら食べていただいている。出来る利用者には、一緒に準備や片付け行っていただいている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	身体状況、習慣に応じ食事摂取量を毎食チェックし記録に残している。また水分量も個々の状態を考慮して支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアが自立している利用者には、声かけを行い、介助の必要な利用者には、食後の義歯を外し、其の都度、うがい、義歯の洗浄等を行っている。夕食後は義歯洗浄剤を使用している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターン、習慣に対応し、時間で声かけ誘導を行い、自立に向け支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の便秘状態を把握・理解し、習慣を活かし飲み物等で工夫を行っている。また、個人に合った緩下剤にて調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴が楽しみとなっており、一人ひとりの希望に合わせて行えるように支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や其の時の状況に応じて、気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法、容量について理解し、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう個々の生活歴を活かし役割、楽しみごとや気分転換等支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段行けないような場所でも、できる範囲で本人の希望を把握し、出かけるよう支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望にそい、買い物等必要に応じ、小遣い帳により、収支を確認し、いつでも使えるように応じている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に対応し、自ら電話が出来るように支援している。手紙のやり取りの出来る方は、やり取りが出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓、居室の窓から自然の光が入り、照明を利用調整し光を多く取り込める造りになっている。季節の花の採取、また、イモ類など収穫し季節感を取り入れている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になりたい時には、居室で過ごしていただいている。居間、畳コーナーでは、気の合った同士が、談話されたりして過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	転倒などの点に注意、配慮しながらも、使い慣れた家具、仏壇、写真など居室に置いて、安心して過ごされるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、入口、ドアに大きく名前を貼っている。トイレも分かりやすく表示している。		